明治廿七年八月一日印刷
明治廿七年八月三日發行

婦人衛生雜誌

第五拾七號

私立
大日本婦人衛生會

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

大日本婦人衛生雜誌
第五拾七號
目次

講演

◉小兒の懷疑に就て(承前)　宮本仲君

◉疾病の原因及外科治療　醫學士　田代義德君

◉河豚魚の話(承前)

衛生叢談

◉黑死病研究の結果

◉香港黑死病の減少

◉青山石神兩氏の容態

◉兵士の養生法

◉在韓兵士の食物

◉船暈の治療

◉咯痰消毒の簡易法

◉牛乳取締と販賣

◉奇病

◉四ヶ年來の妊娠

◉女齒科醫の嚆矢

◉婦人衞生會々况

◉廣告數件

大日本婦人衛生雜誌
第五拾六號
目次

講演

◉小兒の懷疑に就て　宮本仲君

◉女子の体育に就て

◉河豚魚の話

衛生叢談

◉黑死病に就て◉黑死病原因の發見◉青山石神の兩氏黑死病に罹る◉赤痢病の注意◉赤痢東漸の道中◉士官學校内の熱病◉大坂府下自殺人の數及原因◉衞生デモタラフキー第八回萬國會議題◉神經の腸胃加答兒◉窒扶斯流行◉地震と胎兒◉皮膚病◉赤飯の中毒◉白粉の中毒◉半年間の不消化◉醫師の繁忙◉大日本婦人衞生會懇親會

◉廣告數件

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

婦人衛生雜誌第五拾七號

講演

（明治二十七年八月三日發行）

●小兒の懷き寢に就て（承前）

宮本仲君

前に申した通り同衾するのが宜しいと思ふのは、古來の習慣に據るのであるが此を理論に照して考ふれば、其中唯一ッ動物性の温といふのが大へんの便益であるのみで併し其の温も夏季には全く不用になる、其外は余り大なる利益もない樣である、即ち小兒が淋しがつて眠れぬとか、寒さの爲めに眠れぬとか思ふ點は此方からの想像に過ぎないのです、始めの中に淋しがつて眠らぬだろう寒いから屢々眼を覺すのであらうとか、イヽ加減の想像を下して遂に懷眠の習慣を附けたのが五六ケ月過ぎた後に至つては容易に改むる事が出來なくあるので、嘗て推量が化して惡習慣の種子と爲るので御坐いましよう、而して又一所に寢るから又は離して寢るからといつて、夫れが爲め愛情に厚薄の差を生ずるなどゝ云ふとは決して無い筈で、母子の愛情と申すものは左程單簡の事にて變ずるものではない、成程小兒の乳養中實母より反て乳母を慕ふが如きことはありますが、此事は種々の謂はれがありて然るものですか茲には其話しは略しますソレから又同衾を可とするものは、昔より俗間にて申す如く夜乳を數々引かせなければ乳の量が耗るから抱寢をして澤山に遣るが善いといふことを申しますが、是れは全く虛で且害ある

事です、大概夜の八九時過ぎから翌朝の明け方位迄の間は、通例人間の休眠する時間で消化の力も自ら欠乏する位にあつて居るものなれば、小兒にも夜中には全く乳を飲ませない方が宜しい、去れども已むを得さる時は其夜間に一遍若しくは二遍迄ぐらゐ飲ませなければならない場合もあろうが成るべくは、夜の十時頃即ち母親が就蓐の際にタップリ哺啜せソレから、翌朝の六時頃即ち母又は兒の目覺めます時分までは、全く乳を遣らぬやうに僻を付るが宜しい、ソーいふ風にすれば乳兒の消化器に取りては毫も障害なく、又母に取りても乳汁の分泌量が減少する抔といふ事は決して無い筈で有ります、夜乳を利益ありと誤想して夜中に矢鱈無性に乳を遣つては大に惡結果を呈する事があります、又た夜分眠りの間に乳房を含み居りますれば、口内に乳汁が殘溜つて不潔となり其れから黴菌が發生して遂に鵞口瘡など丶云ふ口内の疾病を起します、併し此れは抱寢をする者に斗り必ず來るといふではない、懷寢の外にも無性なる授乳を致しますか又は不注意のお乳母さんなんかであると、口内の掃除が行屆かぬ故に鵞口瘡など丶いふ病を起因する場合があり易ひです、故に抱寢をする人ばかりでなく別に寢る時でも授乳の方や口内の掃除には注意しなければならぬ、小兒が眠る時に乳房を含ませて置ては宜しくないから、十分哺啜して漸々と眠りに傾く時には徐々と乳房を離して仕舞ふて、歌でも謡ふなり或は輕く叩くなりして乳房なしに眠らせるが宜しい、夫れでないと兎角今申した樣に黴菌が出來て口内の病氣に罹り易いです、鵞口瘡といふ者は白いポツ／＼し

た俗に乳糟といふものと同じ様でありますが、其れを顯微鏡で見ますると其中に黴菌が澤山に生て居ります、斯の外懷寢をすれば總て不規則の養育に陷り易いから、宜しくないと一方の人々からは抱眠を嫌ひます斯ういふ風に段々と兩方の說を聽いて見るとドチラの說が宜しいので有るかと誰何もお迷ひになるのでしよう、則ち御姑さんは懷寢說即ち小兒を一所に寢かさなければ育ち難ひと仰せると、一方では御良人が其反對にて曾より小兒は別に寢させた方が能いと聞て居つたがといはれるそこで、御自分は何方に從つて能いやら貞ならむと思へば孝ならず孝ならむと欲すれば貞ならずでドチラの說に從つて宜しいか其理のある所はドチラだろうと甚だお迷ひで、嗚呼早く婦人衛生會に行て話しを聞て置けば能かつたがと曾てより此會に御不勉强でありし御後悔が其時に至つて始めて浮むで御坐ゐましよう故に常〳〵此會には御熱心にありたい。

玆に右の辨論を聞きて段々と比考致して極公平に判斷を定めますれば、「同衾蓐中に懷眠するよりも寧ろ兒をして別蓐に獨臥せしむるを勝れりとす、然れども其同衾せんとするものにして能く十分の忍耐と嚴重なる注意とを存するを得ば、又敢て懷寢を全く禁制するに及はぬ其全く禁制せぬのは、注意と忍耐とに依て能く其害を避け得るを以ての故なり」と斯樣に宣告致し度ウ御坐い升、即ち公平に評して見れは隨分懷眠說でも理屈は付く、殊に前にも御話し仕た動物性の温を與へるといふ一點は夏時には全く不用であるか寒氣の頃には最も便益で一槪に惡るいとのみいふて退け兼ねる、古

小兒の懷き寢に就て

風の習慣でも宜い事は宜いといふより外ない併しながら此益は益だが之に對する害の多少は幾許だかと差引勘定に考を及せば是れも亦たなか〳〵多い、先づ第一に不時不正に乳を飲むといふ事、感冒し易き事、或は壓し潰すなどゝいふ聽くも恐しく言葉にも盡きたる害等が有りて、此害は其益に比較して見ると却て多い、其れ故に若しも動物性の温を代償する手段が外に出來るなれば、別に寢る方が宜しいといふ判決が沸いて來るのである併し前に陳へた抱寢の害の在る廉々を充分御承知になつて此害を避け、且防いで往かねばならぬと云ふ觀念が存してあるなれば、抱寢をしても敢て苦しくない、定めた時間でなければ決して乳も飲ませぬとか擱かし出したり懷き入れ過ぎたりして温冷に過不足を來す樣のことなくするとか又深夜若くは半睡中には哺乳せしめぬとか其他極々充分なる注意と又小兒が假令泣かうと其聲に畏れて兒の意の儘にさせるといふ樣の行ひなく、能く之を忍んで衞生上保育上の事は小兒の爲めに是非實行せねばならぬと云心得か大切です即ち此堪忍と注意とが萬一にも母親若しくは乳母に缺けたりとせは其懷眠の害は隨分尠くないです、故に又た「懷眠に於ける利害の多少は大に母親の注意に關す」との一言をば附言すべく存じます、併し其注意は尋常人には中々永續が六ヶ敷い一月か二月位は全く手落なく出來るかは知らぬが一年半なり二年なりの長い間には或は手落ちが有りソーです、小兒の乳を飲むは大概一年半永くとも滿二年、先づ一年半乃至二年の間其後は御祖母さんとか、お姉さんとかいふものゝ手に賴つて寢ませうが、其れは

別として乳を飲ませる二十ヶ月内外の間傍人より種々の舊弊事を言はれても尙是れまでの習慣を破つて同衾すると夜乳をは引かせず兒眠れば忽ち乳房を去る抔と云ふ注意や忍耐は遂には漸々と崩れ易いと思ひます、故に寧ろ別に寢た方が母兒共に勉めずして其節に當るを得て宜しい、別に寢ればとて始めの二三ヶ月間は好習慣を附するが爲めに隨分勉めなくてはならない、別寐に在りて小兒に泣き立てられると、直く不慈の慈心を起して矢鱈不規則に授乳でもしたらんには、其後に至つては追々小兒にも智惠が附て來るから其僻を直す譯には容易に往けませぬ、始めから少し辛苦いのを忍んで衞生の害になり育兒上に宜しくないといふとは假令一寸でもせぬがよい、是れまでの習慣中に不仁の仁と看做す如きの點あらば眞實の慈愛心に因つて能く之を改めらるゝと遂には大へんに樂になります、斯ういへば講釋師の虛をつくのと同じやうに聞へましようが、私は决して虛をつくやうな惡人ではないから、眞個の事を申すのです既に其例を擧げて見ますれば幾つも有ります、現に私の知人中にも小兒を別臥せしめて三四ヶ月位までの間大層勉めて見たが兎角泣いて往かぬから、大なる害が無いなれば抱き寢して見よう」と言はれたのを「モウ少し辛抱して遣つて御覽なさいといふて置きしに、其後暫くにして追々良結果を呈しまして夜は何も食べず朝もサウ早くは食べたがらずになり、又初め母親が兒の泣く度に夜分上着を着て出て往つて世話をして遣つて隨分手數の事でありしがこれも三四ヶ月經つた其後には小兒も習慣になつて夜分も一遍位しか泣かず、

小兒の懷き寢に就て

泣ても叩いて遣るとすぐ好い工合に眠る、眠るばかりでなく從て感冒や口内の病などもなく大層に樂を感じました其れですから動物性の温といふ唯だ一點の益殊に暑氣の頃にはいらない所の事で、害の不少ぬ事をして居るよりは寧ろ二三ヶ月の堪忍に因て一年半乃至其後久しい間の樂を結果しますから宜しく御勉めを願ひ度イ、各樣は既に此等の事には御經驗も御注意もあるに相違あるまいと存じますが、兎も角も御出入の人々などには御敎へを願ひたい、ドーも始めの二三ヶ月は大へんに面倒です其上に可愛といふ愛情を含んで居るからなか〳〵私共が別に御寢なさい定つた時間に乳をお飮せなさいと言つても、多くは寒むからう寂しからうといふので一遍が一遍に止まらず遂〳〵抱寢の習慣を附けて仕舞ます、最早二三ヶ月でも此習慣を附て仕まつたならば容易に直すことが六ヶ敷い、反之幸に良き習慣に成長した小兒は乳離の後杯には別して樂になりますもので眠くなると、直ぐ床に往つて獨りで寢る、起きても靜であるといふやうに、大へん規則の宜い小兒が出來るのです、現在御案内しても宜しいが其例にすべきものが二三軒もあります、其れ故無理に御勸め致すのではないが別に寢かせる前申した樣な習慣をお附けなさつたら、小兒にも利益し母親さんにも大に便益であらうと考ひます、一概に懷寢には害があると申すでは決してありませぬが、其際の注意や忍耐が中々辛苦であるから此に不足があつて不測の害を見んよりも、寧ソ之を止めて獨臥の方にした結果が勝つてあるといふお話しで御坐います、丁度寒さの時候に當つて甚だつ

まらぬ事ではありますが思ひ附いたまゝ御話し致したので御坐い升、お話しが前後致しましたり不辨でございますから御解りになりましたか如何ですか御免しを蒙り度い。

（完）

◉河豚魚の話　（承前）

卵巣の中で毒を多く含んで居る所は肝臓でありまする肝でありまする魚屋抔では蓮花と言ひます此中に多く含んで居ります之に次いで睾丸であります斯く言へば卵巣が一番それから肝臓、睾丸はそれより毒を含んで居ることが少ないのであります夫故に河豚魚の中でも毒を含んで居ることが少ない處は、河豚魚は睾丸を食べても、請合ふと云ふことは言はれませぬけれども夫程危ぶないことはありますまいそれが男性であつたら宜いかと云ふに其河豚魚の肝臓は雄であつても睾丸よりは毒を多く含んで居る勿論雌の肝臓よりは少ないけれども睾丸よりは多く毒を含んで居る其他肺臓とか胃腑とか是等にも幾らか毒を含んで居る併し是れは餘程少ない肝腎の肉は何うかと云ふと筋肉のみには毒を含んで居ることは實に少ないものであるぢやからして外の卵巣抔に傷けて毒が浸込んだりする樣なことがなければ食べても害にはなるまいと思ふ筋肉のみには毒を含んで居ることはないと云いても宜しい是れが多くの試驗をして是丈のことが出來る樣になつたのである

扨今申した結果として毒を含んで居るものは種々あるですが其中で肝臓は河豚魚の身體の割には年中變はることがない其重さと云ふものが變はることはない其代り體重の十分の一のものとすれば夏

でも秋でも冬でも一向變はることがない之に反して卵巢と云ふものは其重さが始終變はるものである冬の時分は卵巢が萎んで居つて河豚魚を一つ捕つても是が雌であるか雄であるか分らぬ睾丸も卵巢も顯微鏡でも分らぬ樣に小さくなる或時は産卵期即ち玉子を産む時分には其産出す卵と云ふものが御承知の通りに外の魚の卵と同じく兩方の上に卷く皮があるそれから透通つて見えるさうして見ると澤山の粒がある粟粒位のものが澤山ある其の卵を産附けてそれが成育すれば一の魚になるのであります其れが産卵期になると非常に大きくなるのであります

それから外の時節には身體の何百分の一と云ふ樣に非常に小さいがそれが産卵期になると何分の幾つと云ふ程に大きくなつて居る多く毒を含まれて居る其卵巢が時と共に色々になる其卵巢の大きなるは即ち卵巢が成育して居るのが三月頃であります夫故に河豚魚の中毒を見ると三月頃から始まりて六七月頃に及ぶですそれから八月頃から二月頃迄は尤も少ない河豚魚の中毒がないとは言へないけれども其時分には食して害を受くることが少ない年中毒を含んで居るのでも産卵期には毒が最も多い其時は屢々人が害を受けるのであります

それから此毒の働きを見るです色々の動物に依つて試して見るです何う云ふ工合になつて苦しみ又ドノ樣な鹽梅になつて終には何う云ふ樣になつて死ぬか之を人間に比し是が色々試驗をして是迄經驗して見ると動物にも同じく働くものであります兩棲類に屬する蛙抔に與へまするど平生活潑なる運動をして居るにも拘らず運動が鈍くなつて來て

外から之をツチルとか何うとかしなければ自から運動をしない樣になつて來る是は蛙の樣なものでも呼吸運動と云ふものがなくなつて仕舞ふ冷血屬では呼吸運動がなくなつても生きて居る溫血屬とか哺乳動物は一時も生きて居ることが出來ぬが蛙は運動がなくなつてもまだ心臓が動いて居りますそればかりでは試驗することは出來ませぬからして蛙には何う云ふ樣な働きがあるかと云ふことを見るには蛙に少量の毒を與へるのです其時に片ッ方の足の動脈を縛つて置くと其毒の屆かぬ所は毒の働きを免れるそれで蛙の左の足を縛つて置いて脊中にでも注射して遣るとさうすると左の足に毒が動かぬからして縛つた所丈免れるのであります

（未完）

◉疾病の原因及外科治療

（五月五日於富士見倶樂部開婦人衛生會例會）

醫學士　田代義德君演說

私は今日本會に出席致しまして、皆樣に御話を申上げます。演題は未だ極めて置きませんでしたが、極く漠とした御話で有ります。先づ一體、病と云ふものゝ原因、即ち疾病の起りを御話致し、次いで自分の專門に屬して居ります外科の治療に就て、少しく述べ樣と思ひます。

病と云ふものは一體ドウ云ふものかと云へば、つまり我々のからだの平均を失ッたのが即ち病の原因で有ります。併しサウ云ふ風に云へば、誠に單簡で有りますが、實際は疾病と健全との間にはいろ〵中間物が有ッて、之を判然區別する事は醫學上より言ッても六ヶ敷いので有ります、例之ば

五本の指にしても一本だけ特別に太い、然らば其太いのは病かと云ふに、ソレが爲めに格別の害もなさず、勿論醜いと云ふ點はあるが、其外に故障がなければ、之を以て直ちに普通の病氣と認める事が出來るかドウで有か、是等の事は隨分六ヶ敷い問題で有らうと思ひます。今日御話し致します事は、是れが疾病の原因で有ると、昔より言ひ傳えて來た事を述べまして、次に今日は病の原因に就ては、ドウ云ふ風な點が昔と變ッて居るか、ドウ云ふやうなものを主に病氣の原因と認めて居るかと云ふ事の概畧を述べやうと思ひます。漢法醫學などに於きましても、矢張り病の原因を種々に說明して居ります。併し漢法醫學は皆想像上より成り立ッた說であるから一ッも是れと云ふ證據は無い唯此病は陰陽の變化で有るとか云ふやうな事を申して居ります。然らば其陰陽の變化とはドウ云ふ事で有るかと云ふに、實際何の事か解りませぬ。此間或漢法醫に出逢ひまして、疱瘡の話しを致しました處が、瘡疱は陽の病であると云ふ事を申しましたが、陽の病とはドウ云ふものか少しも解らない。又疱瘡の事に就ては、本會の雜誌にも載ッて居ッた事があつた。疱瘡の治療法として、赤い布を用ゐ、或は暗室に入れて置きますると、痂が取れても、痕を遺さないと云ふ事が書いて有りましたが、是等の事は漢法醫の方では、昔から言ッて居た事で有るそうです。疱瘡の事は支那に於て極く古くより言ッて居ッたので有るから、或は疱瘡に關して支那の方に他に何か言ひ傳えでも有りはしまいか、又其中には今日の西洋醫學を助ける様な事が有りはしまいかと思ふて、種々其醫に質

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

問して見ました處が、疱瘡は陽の病であるから暗い陰の室に入れると癒ると云ふのであるさうで御座います、尚は其外に信ずる譯には往きませぬが、ドウ云ふ書物にドウ云ふやうな事が書いてあるか見たいと云つて頼んで置きましたが、未だ知らせて呉れませぬから委しい事は解りませぬが、其他木火土金水、是等も疾病の原因の中に入れてあります。是と丁度似寄ッて居りまするのは、西洋のヒポクラテスです。此人は醫學の先祖とでも云ふべき人ですが、此人も木火土金水を疾病の原因とする如く、病の原因は寒暑乾濕の四ッで有ると說いて居りました是れも誠に漠とした說では有りますが、併し前に申した漢法醫學の考へに比すれば實際に就て解り易い說であります。サウ云ふ風な譯で、昔は一般に病の原因は、ドウ云ふ風にして起るので有るか解らなかッたので有ります。ソレが漸次醫學の進むに從ッて、醫學者の說として病の原因を說明したのでは、神經病理學と云ッて神經を以て、病の原因を說明したので有ります。總べての病は神經から起る、即ち神經が冒されると、病が起るといふ學說が成立ちました、けれども此說は間も無く倒れて仕舞ひました、併しながら今日でも全く病の原因は神經から來ないと判斷して仕まう譯には往かない、今日諸人に現はれて居る病の中で、神經から起ッたので有らうと思はるゝ病が幾らも有ります、例へば直接の原因ではないが、虎列剌の如きも其通りで有ります、一定の原因が有るなれば、病が起るに相違ないが、別に虎列剌になるへき原因もないのに、虎列剌と云ふ病に罹りは仕ないかと云ふ事を非常に苦心する

人、心配をして居る人には早く傳染する。同じく虎列剌の患者を看病して、もし病人に接近して居ても虚心平氣の人には傳染せずして、極めて心配する人は、却て冒さるゝと云ふやうな有様が實際有りますが、是等の點は、幾分か疾病の原因は神經に關係すると云ふ事が申されます、此頭腦科大學で出版する大學紀要と云ふ書に、ベルッさんが肺焮衝と云ふものは、神經が冒されて來るものだと云ふ事を言ッて居られる。今日では肺焮衝は一定の病原が有つて冒されると云ふ說になッて居るので有りますが、神經が冒されて來るので有ると云ふ事を、ベルッさんは四五年前より頻に唱へて居られます。其他神經から病の起ると云ふ事は實際幾らも例が有ります。故に古人が神經を以て、總べての疾病の原因を說明仕樣と思ッたのは、强ち無理ではないと思ひます。今日の醫學上に於きましても、神經病理說を悉く捨てゝ仕舞う譯には往かないので有ります。氣から病の出ると云ふやうな事は幾らも世の中にある事で、今日も出掛けに本會の雜誌を觀まするに、「氣で氣を病む」と云ふ題で、極く之に適當した話しが載ッて居りました。或る人が酒に醉ッて、夜分暗黑で水を吞みまして、翌朝其水を見ました處が、非常に穢ない水で有ッた、ソレを氣にして遂に病ひになつたと云ふ話しで有りますが、氣から病が出ると云ふ事を說明するには、大變に好い例しで有ります併ながら萬病を神經を以て說明する事は、到底出來ないので有ります。

神經病理說に續いて起りましたのは、血液病理說で有ります。矢張り神經病理說の如く、血液を以

て萬病を研究仕やうと思つたので有ります。此れは英吉利のハンター、ハールウエーと云ふ人などが專ら此說を取つたので、恰も此頃血液が人間の身體を循環すると云ふ說の始めて出たる時で、併しながら往時は未だ血液と云ふ事は知れない、唯一の靈液とばかり云ふで、實際ドウ云ふものが通ずるので有か解らなかつたのを、ハールウエーの發見に依て、人間のからだには血液と云ふものが循環すると云ふ事が解つて、之を以て總べての病を說明仕やうと思ッたので有ります。一体血液から疾病の起る事は幾らも有りますから、今日の醫學に於ても、頻りに血液の撿査をして居る。以前は血液に注目する人は誠に少なかつたが、諸傳染病の如きは、總べて血液に重きを措くやうになりました。一番好い例は我國に有名なるケダニ蟲、幷に新潟縣下の恙蟲とか云ふやうな病氣は、血液の中に一定の蟲が有ッて、ソレが病氣の原因で有ります。是れは秋田縣の醫學士田中敬助君幷に北里さんも該患者の血液中には病菌が有ると言はれました。其他マラリヤ即ちヲコリの病人の血液の中にも、病菌即ち蟲が居ッて、ソレが病原で有ると申して居られます。血液病理說は一旦廢りましたが、今日尙は研究の上血液病理說が興ッて參りました。此血液病理說は人間の身體の血液を調べると、其中に病氣の原因となるべきものが這入ッて居ると云ふ說になッて居ります。

第三に成立ッたのが、細胞病理說、人間の身體を組立てゝ居るのが皆細胞で、圓く或は四角であつたり、或は多角形のもの、小さき袋の形のもの、或は平なるもので有りますが、是等の細胞と云ふ

ものから、人間の身体が組み立てられて居る。我々の身体に病の起るのは、即ち此細胞が冒されるので有ると云ふ説て有るが、此細胞病理學は今日まて行はれて居ります。今日我々が病の原因を探索するには、バクテリヤなどゝ云ふ新奇な事をも探索しますが、人間のからだを組み立てゝ居る細胞の變化をも調べて居る、其變化に因て病の原因を調べると云ふ事になッて居る。則ち是等は疾病の原因を細胞中に探さうと云ふ説であるのでございます。

此二ッが稍學者の信用を措く説で、細胞病理説の如きは一時は全世界にまで普及し、且つ信用を博したる説であります。又近頃に至ッては微菌病理説、（是れは微菌病理説と云ふので有りませぬが右の三ッに對比して私は之を微菌病理説と云ひます）是れは總べての病氣は微菌から來ると云ふので、微菌と云ふことは近頃學問社會の流行で有ります。微菌と云ふものが有ッて總べての病氣はソレから起ると云ふので、萬病を是れで説明しやうと致して居ります。殊に傳染病の如きは殆ど悉く此微菌より來て居る。其他の病も今日は解らぬが。後來は微菌を發見するで有らうと云ふ説が有ります。今日は疾病の原因を調べるには、微菌に因ると云ふ説が盛に行はれて居ります。微菌が疾病の原因であると云ふ説の起ッたのは、未僅かに十年か十四五年以來の學問で、甚だ幼稚なる學問で有りますが、非常の進歩で、漸々世間に實扶垤里亞或は破傷風とか、其他丹毒とか、殊に恐るべき肺勞肺結核の如きは、一定の微菌に依て來たると云ふ事は、今日では殆ど誰れでも認め得るやう

Digitized by Google　Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

になりました。譬へ平常健全なる身體の人でも、一朝黴菌の爲めに冒さるれば、ソレが爲め病氣になると云ふ事が解ッて參りました。斯う云ふ工合に病の原因に就ても、昔から種々の變遷を經て居ります。其中で一番終りに述べた黴菌病理説と云ふものが、今日の醫學社會を支配して居る所の學説で有ります。此黴菌病理説の發達を調べるには、外科的治療即ち創の狀態を研究するが宜しい。實際に於ても、外科の患者の創傷に因て、漸次黴菌が人間のからだに這入ると云ふ事が解ッて來た。内科の病氣に因て黴菌と云ふ病の原因を探すよりも、外科的の病に依て黴菌を研究した方が早いのであります。則ち外科學の進歩と共に黴菌學が非常に發達して居るのであります。サウ云ふやうな關係からして、病の原因を述べるに就て、外科的治療の御話を致せば、日常遭遇する事であるから黴菌が病の原因になると云ふ事が、誰方にでも容易く御解りにならうと思ひます。

傷を人間のからだに受けますると、其傷が容易く癒ッて仕舞ふ事もあり、或は痛んで來て膿を持つ事も有ります、膿を持て參りますると、是れを腐ると云ひます。ソコで昔から學者が傷の腐るのはドウ云ふ譯かと云ふ疑ひを起して、頻りに調べまして、傷の腐ると云ふのは、空氣に觸れるからである故に傷の中に風の這入るのは宜しくないと申して居りました。ソレ等の點からして醫學者の方でも一般の世人も、傷の中に風の這入るのは惡るいと云ひ、大氣が傷に觸れると、膿を持ッて腐敗すると云ふ事を言ッたので有ります。傷の療治をするにも大氣に觸れない樣にするが宜しいと云ふ

Digitized by Google
Original from
UNIVERSITY OF MICHIGAN

ので、傷の上に膏藥を貼るとか、或は大氣と傷と觸れないやうに、種々の粉藥を以て閉ぐとか云ふ事をしました、膏藥の如きは我國でも古くより用ゐて居るので、矢張り外氣と傷と相觸れないやうに、膏藥を貼ると言ッて居ります。然らは尚は一段進んで空氣が直接に傷を害するのか、或は空氣中に毒物が有ッて、傷を腐敗なさしむるのであるかと云ふ考へを以て……又或人の如きはミヤスマと云ふものが、空氣中に含まれて居る。此ミヤスマと云ふものに觸れると、傷が腐れる。又脚氣の如きはミヤスマの毒より起ると言ッて居たので有りますが、近頃は一層醫學が進んで參りまして大變に昔とは變ッて居るが、昔はミヤスマ或は瘴氣毒に因て病を起す事が有る。ソレ故低い土地若は沼の近邊に住んで居るものは、瘧を患ふるものが多い即ち近江の如き近くに沼の在る土地に住む人は瘧を患ふるものが多い。是れは斯う云ふ土地は別して空氣中に多量のミヤスマが含まれて居ッて、ソレが爲めに害せらるゝのであると云ふ。然らは其ミヤスマと云ふものは、ドンなものであるかと云へば、何だか少しも解らないのでありま す。ソレから空氣と云ふものは、酸素と窒素とに因て成立つと云ふ事の解ッてより以來、酸素が傷を腐らせるので有ると云ふ。併し其說も無論一般に行はれずして仕舞ッた、昔はサツ云ふやふな工合に樣々に考へを起して、傷の腐る原因を研究しましたが、遂に確たる事は解らなかッたので有ます。ソコで今度は傷の腐るのは恐らく物の腐ると同じく、肉類などの腐るのと同じ譯で有らうと云ふので、肉の腐る事などを頻りに研究して、肉の

腐る原因も解る樣になりまして、是れを端緒として今日の如く進步したので有ります。始め肉の腐る事を發明しましたのは、空氣中にミヤスマが有るのか、酸素が有つて腐るのか、兎に角空氣と傷と長く接して居るときは、腐敗するので有ります。例之ば夏季煮物抔を長く仕舞つて置くと腐れる。然らば空氣と其物とを遮斷して置けば腐らぬで有らうと云ふ考へを以て、種々の試驗を仕ました。例之ば壜の中に腐るべき物質を入れて置き……先づ肉抔を細く切つて入れまして、上に栓をして置けば腐らぬ、よし腐るにしても一日で腐るものなれば二日は腐らぬとか、二日の物は三日持つと云ふ樣になつて往きます。又甚だしきはガラスの壜を弓形に曲げて置くと、ソレでも眞直にして蓋をして置かぬ物よりは腐り方が遲いです。之を全く腐らぬやうに仕樣と云ふには、腐るべき物質を入れて、ソシテ煮沸して、百度若くは百度以上の熱に當てゝ密閉して置くと、たとへ空氣が這入ツて居らうとも腐る事はない。又其他の試驗では硫酸を通過させた空氣をば、此腐るべき物質に入て即ち煮沸して置いた肉類の中に硫酸を通過させた空氣をば入れて置くと、何時まで經ッても腐れぬ。斯う云ふやうに栓をして置いただけでも腐れないし、又空氣を硫酸で濾過し之を通じて置いても腐れぬ。斯くの如く物の腐るのは空氣に關係するが、併し直接の關係では無いので有ります。又綿で栓を加ッて置いても腐り樣が遲い、硫酸を通過させた空氣は猶更宜しい、酸素と窒素とで組み立てられた、他に交じり氣の無い空氣と云ふものは、決して物の腐るのに關係しない、故に空氣中には、硫

酸の爲めに力を失ふものとか、或は綿を以て、濾過される性質のものとか、又は一定の熱に遇ふと物を腐らせる處の力を失ふ所の物体が含まれて居らなければならない。空氣を百度以上に熱し、或は綿の栓だの、或は硫酸を濾過したものは腐らぬので有るから、空氣が其物を腐らせるのでなくして、空氣中に一の物が有りて、而も其物は綿で濾過されるものだから、必ず形の在るもでなければならぬ、硫酸を通過すれは力を失ふもので有るから、生活して居るもので、硫酸の爲めには殺されるものでなければならない。最も好い試驗は壜の口を上に向けると腐り様が早く、横へ向けると、腐りが遲い。然らば重量を持て居るものでなければならない、皿の上なれば充分腐るが、壜に入れて曲げて置いても腐りの遲い所から見ると、下の方から這入るのでなくッて、上から落ちるものと見なければならない、綿で濾過され硫酸で力を失ひ、上から落ちると云ふ點から段々調べると、此物を腐敗さする物質は一定の形を有して居るに相違ない、即ち今日では之を黴菌と云ひます黴菌と云ふのは小さき細胞のやうなもので、種々の形を有して居るが、肉眼では迚ても見えない、六百倍位ゐの顯微鏡で見なければ解らないので有ます。サウ云ふ風な工合で、物が腐ると云ふ事が解つて以來は、直ちに是れを傷の方に應用したので有ります。傷に膿を持つのも物が腐るのも同じ理屈でございます。全じく傷に膿を持つのも一定の黴菌が關係しはせぬかと云ふので……兎に角此黴菌を殺せば膿を持たずに癒るであらうと云ふ考へを起し、英吉利に今尚は生存して居らるゝ「リスター」

と云ふ人、此人は外科の治療法の元祖とも云ふべき人でありますが、今日では殆ど知らないものはない位ゐの石炭酸と云ふものを始めて用ゐ出したのは此人であります。ドンな幼少な子供でも、傷に石炭酸の特効なる事は知らない者はないやうになりました「リスター」が此發明を致しましたのは、一千八百七十年、今より丁度二十余年前の頃で、未三十年とは經たぬので有ります。爾來石炭酸を用ゐれば　傷はなんでもないと云ふ事が解ッたのでございます。一体生活して居らないものゝ、黴菌の爲めに冒されたのは腐ると云ひますが生活して居る者、即ち我々のからだの一部分を黴菌の爲めに冒されたのは腐ると云はないで、之を焮衝と申します。例之ば肉の一片を放棄して置いて、黴菌に冒される時は一定の臭ひを發し、炭酸アンモニヤ及水に分解するのを腐ると云ふので有ります、我々の生活して居るからだを黴菌の爲めに冒されたのは焮衝すると云ふ、皆様も御承知の脱疽の如きは、指一本の血の循環が止まり、神經の作用がなくなりますので是れは腐ると云ふが、他の生活して居る場所を黴菌が冒せば焮衝すると云ひます。黴菌と傷との關係と云ふものは、斯くの如きものでございまして、以上の點から物の腐ると云ふ事も解りましたので、傷の療治に就ては第一に黴菌を殺すやうにしなければならぬ、黴菌さへ殺せば傷は恐るゝに足らぬと云ふ樣になつて參りました。

ソレと同時に傳染する病も恐らく黴菌と云ふ一の生活物が有りて、是れに因て病を發するに相違ない、例ば實扶垤里亞、窒扶斯の如き病も今日でて

そ是れが固有の病毒も分ッて居りますが、今より二十年前には、此れが黴菌で有ると云ふものさへ分ッて居らぬ位ゐで有りましたが、此時既に「ヘンレー」と云ふ人は、是等の病も黴菌に因て來ると云ふ事を二十年前に申して居られましたが、果して其言の如く種々の病が黴菌に因て起ると云ふ事が今日では明かに分ッて居ります。實に是等は先見の有る御方と云はなければならぬ。ソレ故今尙は其名を書物に遺して永遠に傳ゐて居ります。デ其傷に對して黴菌が害を爲すと云ふ事は以上の理屈で解ッて居る、又黴菌にも種々の類が有ッて、小さい事は非常に小さいが、一定の生活を爲して居る有機体で有る。我々人間も他動物も細胞も有機体で……黴菌も仝じく有機体で有るから、自分で營養を取り生活をして居る。有機体と云ふものは、我々人間の如く一定の食物を取り一定の狀態でなければ、生活して往く事が出來ない、故に或場合には死んで仕舞ふ事もあります。黴菌が生活するには、一定の濕氣と、一定の食物、一定の溫暖とが無ければ生活する事は出來ない。一定の溫暖とは、三十度とか三十七度とか云ふ一定の溫が有る處でなければ生活する事は出來ない。例之ば地球の南極とか北極とか、或は熱帶地方とか云ふ寒熱の甚だしき處、北極などの氷の有る處なれば、無論黴菌は生活して居られない。雪に埋れて居る死體は長く經ても腐らぬと云ふやうな事が有る、又雪の中に腐れるものを圍うとか、或は夏季死体を長く保たしめんとするには、氷を以て圍うと云ふのと同じで、一定の寒冷の度に於ては黴菌が發育しない、然して物も亦腐らない、又一定の濕氣

が必要です、非常に乾燥した處、例之ば熱帶地方の如き、是れは或人の話しで有りますが、熱帶地方に於ては、傷をしましても別に治療をしないでも癒る熱帶地方には赤痢が流行しまするが、其赤痢の爲めに肝臟に膿を持つ、膿を持つ事が有ると之に手術を施して切り取ります。切ッても切口に膿を持つ事もない、熱帶地方では斯樣な療治法を施しましても左程危險ではない、故に熱帶地方に於て足を切るとか、なんとか大きな外科手術を施すのは温帶地方よりは比較的危險が少ない。是れは余り乾燥した處で、黴菌が無いからであると云ふ事ですが、悉く濕氣を取れば黴菌が發育仕やうがないから物が腐らぬ、我々が日常食物を畜藏するにも矢張りサウ云ふやうな法を用ゐて居るのであるから、一定の養ひがなければならない。營養の有る處なればドン〳〵發育する。ソレ故腐ッた肉などは黴菌に取ッては極めて好い食物でありますから、腐敗した肉などには黴菌が澤山這入ッて居る、空氣中の如きなんにも無い處は、黴菌が比較的に少ないサウ云ふやうに黴菌の食物の澤山有る處には、從て多くの黴菌が生殖して居る都會の樣な物の腐り易き處、或は腐るべき物の澤山有る處は空氣も幾分か穢れて居るから、從ッて黴菌も多い。ソレに反して夏冬共に堪へず雪を戴いて居る山の上なれば黴菌は少ない、富士の山の頂上なれば物が腐れる事はない。又海の中なども空氣が宜しいから、黴菌が比較的に少ない、海の中は奇麗になッて居ります、併ながら全く腐れぬと云ふ譯には往かない、腐れる事が他に比して少ないと云ふので有ります。斯やうに黴菌は生活して居

るもので有りますが、一定の濕氣と、一定の溫暖と、營養とが揃はなければ發育されないので有ります。デ黴菌が傷に移ッて來るのはドウして移るかと云へば、一番多いのは、傷に汚れた物を附けるので有ります。先きにも申した通り空氣が傷に觸れると、傷が腐ると云ふ事を昔から言ッて居たが、兩三年以來の學術の研究に據れば傷に空氣の觸れるのは、今日では昔の人の恐れた程には恐れない、元は傷に空氣が觸れると、腐れて膿を持つと云つて非常に恐れたが、今日では左程恐れない、成程空氣中には恐るべき黴菌が澤山有りますが、併しながら比較的に少ない、腐敗した肉の中に生殖して居る黴菌の數、下水に於ける黴菌の數に比較すれば、空氣中の黴菌は殆ど無いと云つても宜しい位ゐです、黴菌の中には六ッの種類の有る事は御承知でも御座いませうが、病になるべき黴菌と、病にならない黴菌と有りまして、此黴菌が直接に傷に觸れたからと云つて、別に害は無いと云ふ學說を守つて、外科的治療などにも惡るい處を切りましてそれなりに繃帶も懸けず、空氣に曝して置く方法が有る、然して其方が却て早く癒り易いと云ふ說もあり、之を實地に行ッて居る學者も有ります。此說を唱へて居るのは、佛蘭西の學者で有ります、無論一般には此說を實際行ッて居るものは、今日はまだ有りませぬが、兎に角傷に對して空氣の左程害の無いと云ふ事だけは明かに解ッて、今日は昔のやうに空氣を恐れませぬ。例之ば一寸四方の空氣中に在る黴菌の數と、溝渠の水の中の黴菌の數とを比較すると、空氣中の黴菌は極く少ない。ソレだから傷に空氣が觸れても恐れ

ずに居ります、傷の腐るのは、腐るべき場合が有る即ち例の多いのは、黴菌を最も澤山含んで居る處の水、或は腐敗した物質とか、或は穢れた布とか云ふものを傷に直接に附ければ、恐るべき結果が顯はれる、空氣が傷に觸れて居るよりも、たとへ一滴たりとも、一片たりとも汚れた水、穢れた布の方が非常に恐るべき事なので有ります。今日の療治法などは一般に此學説を信じて行ッて、居るので有ります。黴菌も傷が腐ッて膿を持つだけの黴菌なれば、左程危險な事はないが併しながら膿を持つだけの性質の黴菌でも、時として漸々に惡るくなつて人の生命に關する事が有ります。左りながら實は此事に就ては、まだ學者が研究中で有ります。一体膿を發生すべき黴菌には數種類有ります。膿を持て傷を腐らせるだけで、他には無害の物もあり或は全身の熱を起すとか、或は肺臟肝臟等の内臟に膿を持つ樣なのもあり、或は黴菌の爲めに血液が腐るを敗血症或は血液の中に膿が這入るを膿毒症と、斯樣に皆病名を附して頗る危險の病として有る。是等の病は今日に至ッても未だ一定の原因は解りませぬが、多數の學者の説に據れば、恐らくは日常膿を發生する黴菌が、膿毒や敗血を起すので有らうと云ふのであります。ソレ故傷も或場合には無害に經過する事も有が、時と場合とに因て非常に危險の事もあります。ソレから黴菌が傷に這入るには「ロース」とか丹毒とか云ふて傷の縁が眞赤になッて進んで往くのは、非常に危險でありなす、大人は丹毒に罹ッても左程に恐るゝ事はないが、若し赤兒が是等の病に罹ッたなれば、百人が百人……百プロセント死亡す

るど、書物にも載せて有ります。丹毒と云ふものは、股の周圍が腫れたり、赤兒のかぶれなど抔から起る。サウ云ふやうな危險の病氣に黴菌が這入ッて來る事が有り、其他諸處に黴菌の這入る事が有ります外科醫術に於て、傷の腐ると云ふ點を調べて以來、漸次病の原因と云ふものが解ッて來まして、黴菌が原因と云ふ事も種々解りましたので有ります。膿毒とか、敗血とか、丹毒とか、其他の病でも今日まで知れて居るのが、悉く黴菌から來るので有ると云ふ事が解ッて居ります。愈々黴菌から來ると云ふ事は、次の如き方法に因て證明する事が出來ます。又皆樣にも容易く御解りになられ樣と思ひます　（以下次號）

衛生叢談

◉黑死病研究の結果

黑死病研究の結果なるものを得たれば今之を記さんに第一北里博士は黑死病患者の血液を以て此を鼠、豕、兎などの體中に注入したるに皆黑死病の徵候を現して死し無數のバチルスを其血液中に發見したり但孵殖の時間は體の大小に依りて長短あるものにて人體には四日間を要するが如くなるも未だ詳ならず

小さき動物は大抵血液注入後直に死せしが獨り鳩のみは其病毒に感ぜざりし而して何れの場合にても無數の同形バチルスを其內臟內に見出したりバチルスの形は棒狀にして其の兩端圓く他の病氣のバチルスと其形を異にす而して此バチルスと黑死病と密接なる關係を有するは爭ふべからざるの事實にして顯微鏡にて此バチルスを撿するに唯極微

の運動を認むるのみ又通常體温に於て盛に繁殖し其徵候は人間も他の動物も少しも異る所なく老少男女亦其差を見ず

斯て博士は詳細に其實驗を說明せしも黴學は醫師すら之を解するに困む程の六ヶ敷學問なれは唯其要點を擧れは左の如し

第一　バチルスは呼吸に依りて體內に入るべし

第二　バチルスは血液の注射に依り又は身體の傷口より體內に入るべし

第三　バチルスハ食物と共に體內に入るべし

（此事は調查尙は不充分なり）

又黑死病患家の塵埃は甚だ有毒なりと斷定するを得べく此一事は人々に取り甚だ大切なる心得なるが之が經驗を爲す事頗る容易にして現に淸國人の家々に於ける塵埃中に死せる鼠の血液を檢するに皆なバチルスあるを發見せり

次に如何にして此バチルスを殺すべきかの問題なるが此に就きては未だ充分の實驗を經ざるも博士の說に依れば日光若くは攝氏三十度（華氏八十六度）の溫度に曝すか又は攝氏八十度（華氏百七十六度）の熱湯に此を入る時は四日間にて又攝氏百度（華氏二百十二度）の熱湯にては數分時の內に此を殺すべく炭酸（百分の二）生石灰（百分の一）にては二時間にて此を撲滅すべし

是より博士は過去の記錄に徵して昔時世界の各國に起りたる黑死病に關して論ずる所ありたるが尙博士の報告に依れば香港地方の黑死病は多くは支那人に起りたる者にて其住家を一見する時は發病の無理ならぬを知るべし依つて此病毒を避んには身體家屋を淸潔にし善良の飲料水を用ひて下水の

病は大に減衰せる者の如く支那人も追々歸途に就けり

●青山石神両氏の容態

一時は兩氏の容態に付いては人々氣遣はしく思ひしが追々快方に赴かるゝとの電報なれば遠からず全癒して北里氏と共に絶大の名譽を擔ふて歸國せらるゝことなるべし長崎神戸大坂東京其他の各地に於ても歡迎の準備をなさんとて朝野の有志者は昨今協議中なりといふ因に記す北里博士には官命により近日歸京すべしとの事なり

●兵士の養生法

陸軍某軍醫學士には此程兵士の養生法に就て最も簡易に夏時に於ける兵士の養生法を演述せられたり時節柄參考のため左に記す

一 全身を淸く拭ふへし

掛け方を能くすること、患者を隔離して其の家屋什器を消毒すること、夜具の如きは一時間許攝氏百度の蒸氣中に入るゝか又は數時間日光に曝して其餘毒を消滅せしむべし死體は生石灰を以て此を蓋ひ少くとも九尺の地下に於て此を埋むべく此病にて死したる兎鼠の類も其取扱方此に同くすべし人民は可成發病地を避け常に其飲食を愼むべし以上要するに此黑死病は將來果して之を根絶し得るや否やは尙研究を要するものあり

●香港黑死病の減少

去廿一日午後一時十四分發にて中川領事よりの電報を揭ぐれば左の如し

七月十二日正午より七月十九日迄香港に於て死亡者凡そ四十二名治療中百五名外に支那病院に於て死亡者七名治療中四十四名あり九龍の黑死

拭ふには成るへく清き水を用ふへし濁りたる水ならは酢少し加へて用ふへし拭ふとは少くも日に一度ならんとを要す塵に塗れ汗に霑ひたらんには着衣の儘にて暫し息ひて後拭ふへし

腋、陰部、手足の節々、足指の間、其他紐なとの觸るゝところには拭ふとき特に心を用ひ若し赤くなりたらは善く洗ひたる後脂を塗るへし

一頭髮は短く截り汗出つるときは折々脱帽して拭ふへし暑甚しき時は帽の後に手巾を挾みて項を日に曝さぬ樣用心すへし屋外に在りて久しく帽を脱するは宜しからす

一襦袢、下袴等汗に濡れたる時は身の冷へたる後更ふへし、更ふへき物なくは身の冷へたる後暫し脱き置きて風に曝すへし

一腹痛、下痢の癖ある人は腹に布を卷くへし

一靴には屢々脂を塗り足にさはる處あらは其處には内側より脂を塗るへし

足痛むるに至らは襪を更ふべし更ふへきものなくは裏かへしにして置くへし

宿泊の時は自から足を撿し赤きところ及泡を生したるところを燒酎を吹き脂を滴したるものにて拭ふへし

一食は勞働の前には少し控ふへし働動の後には身の冷なるを待ちて箸を取るへし

食する間は心を落付くへし食したる後は止むとを得さるにあらすは少し息ふへし

一家飯、煮たる野菜類は心置きなく食ふへし麵包は味の損したるあらは煮て食ふを宜しとす其黴を生したる處は切去るへし肉は炙り又暫し煮て食ふへし醃藏肉は鹽出して後に煮るを宜しとす

一果の未た熟せさるをば決して食ふと勿れ其熟したるも多く食ふときは害あり

一煮さる井水、河水等は醫官の許なくして飲むと勿れ湯茶を飲むへし

水筒には湯、茶、咖啡等を盛りて携ふることを要す水筒の蓄既に竭きたる時渇甚しくは成るへく清き水を吸取り酢を滴して飲むへし

一酒類は成るへく用ひさるを好しとす麦酒を得るとあらは少し用ふるも妨なし

一病ありと覺える時は成るへき早く醫官に送るへし遅疑すると勿れ秘結、下痢、咳嗽、胸痛等は輕しと雖打棄て置くへからす

一創は汚れたる手にて觸るへからす

◉在韓兵士の食物

我が軍人が朝鮮にありて如何なる氣候に如何なる物を食し居かは世の聞かんことを欲する所なれ今之を掲げん其糧食共に完全せりといふも諸物價は高き故兵士には不自由を感すと云ふ又遠地に輸送する食物は同じ品多きが故に有志者の心を込めたる贈り物彼の地に届きたるときはさぞ喜ぶことあるべしと

在朝鮮仁川龍山幕營

	朝食	晝食	夕食
七月四日	胡瓜漬 二十匁 茄子 二個	干海老 十匁 砂糖 一匁	雞肉 四十五匁 葱 四十五匁
仝五日	胡瓜漬 二十匁 菜漬 十二匁	塩魚 十匁 砂糖 一匁	雞肉 四十五匁 葱 四十五匁 砂糖 一匁
仝六日	菜漬 十二匁 茄子 二個	干海老 十匁 砂糖 一匁	牛肉 五十匁 芋 四十匁 砂糖 一匁
仝七日	菜漬 十二匁 茄子 四個	煎子 十匁 芋 四十匁 砂糖 一匁	高屋豆腐 一個 煎子 十匁 昆布 七匁 砂糖 一匁
仝八日	菜漬 十二匁 茄子 四個	雞肉 三十匁 葱 四十匁 芋 三十匁 砂糖 一匁	塩魚 十匁
仝九日	胡瓜漬 十七匁	雞肉 三十匁 葱 三十匁 砂糖 一匁	和加布 三十匁 煎子 十匁

仝十日	胡瓜漬	七匁	和加布 三十匁	煎子 十匁	牛肉 三十匁	芋 十匁

◉船暈の治法

頃日獨逸海軍省にて發布せし衛生條例は注船病即ち船暈の治療法を下の如く規定せり抑も注船病あるものは身体健康にして多く航海に從事するものは自然習慣となるを得べしと雖も身体薄弱なるか又は胃病に悩む如きものにありては激症の消化機障碍及び激甚の嘔吐を發し終に生命までも危害せらるゝに至るべし故に本病の發生を豫防せんと欲せば不斷船体中央の甲板上に居を占め新鮮の大氣を呼吸して氣力を勵まし且つ消化し易き食品の少量を喫し及少量の酒精飲料を用るを良とす（酒を飲むことを欲せざるときにも亦然り）而して本病の重症なるものにありては懸吊床に臥して閉眼するも亦た可なり併し激烈の嘔吐容易に休まざるときは氷片、氷裂飲料（セルテルス水に「コンニヤツク」を加へたるもの等）及び麻酔剤を服用せしむるにありといふ

◉咯痰消毒の簡易法

肺結核の傳染病たるは人の知る所にして其傳染は咯痰の媒介によること疑ふ可らざるの事實なり然るに世人は結核傳染の恐るべきを知りて咯痰消毒の法に留意せざるは一見頗ぶる怪しむべきに似たりと雖も仔細に其然る所以を吟味すれば畢竟簡易確實なる適法を知らざるに坐するのみ此事に關して某大家の說く所を聞くに咯痰は乾燥せざる間は決して傳染を媒介するものにあらず床、壁、土間等に咯痰し若くは手巾、紙等に咯痰を包容するは乾燥の好機を與ふるの理あるが故に甚だ危險なり

喀痰は必らず一定の痰壺に受容すべし痰壺は被蓋ある陶器製の者最も宜し偖て消毒の法は痰壺の半迄痰の溜りたる頃之れに一握の曹達を入れ熱湯を灌ぎ十時間程放置するにあり然るときは黴菌死滅して毫も傳染の餘力を殘すことなしといふ此の消毒法の精確なる事は黴菌學上にて證明せられたるものなれば汎く民間に應用せらるゝの日は必ず結核病の蔓延を挫折するの効能ある事と思はる

◉牛乳取締と販賣

近年乳牛の肺結核に罹るもの頗る多く之より搾り取る乳汁を服用して該毒に感染するの危險は今更言ふ迄もなしさるにても沸騰せしめて飲用するをよしとす我警視廳にても玆に留意せられ之れか防遏策を講せらるゝよしなるが倫敦にては近年牛乳販賣者の競爭甚しく同業者の或者は此程新工夫を思ひ付き配達者をして毎日早朝に乳牛を引き連れて市中を巡回せしめ家々の求に應じて一合なり五勺なり一升なり入用丈け乳を購求者の眼の前に搾り取りて販賣せしむるを以て新鮮の牛乳を得んとするものは此乳屋の來るを待ち爭ひ買ひ求むといふ斯くすれば交せ物等をなすの患なく至て安心ならんか

◉奇病

大分縣下毛郡如水村龜山某の三男六郎は學校よりの歸途小犬に咬まれしか歸宅後醫師の診察を受け治療を加へしか一旦其創口は全癒したるに拘はらず俄に發熱甚だしく風と水を嫌ひ若し之を見るときは恰も犬の吼ゆる如き聲を爲し其他怪しき事のみ多かりしか遂に死亡せりと右は多分恐れ病なるべしとて其筋へ屆出でありしといふ

●四個年來の妊娠

大坂西成郡上福島村の山田某の妻女は四年以前に一子を擧けたるに其後五六個月を何となく心地常ならず四年間苦痛に堪へざりしが遂に名醫の診斷によりて子宮外の懷妊にて孕兒か喇叭管に舍りたるものと診察し近々帝王切開術を爲すといふ子宮外の懷妊には一個年若くは一ヶ年半位は胎内に居る例もあれど四個年とは珍らしきことなり

●女齒科醫の嚆矢

本會會員高橋孝子は今春齒科試驗に及第せられ齒科醫の免狀を受けられたり是我國婦人齒科醫の嚆矢とす左に履歷の大畧を記載せん

孃は東京の人なり父を高橋虎一と云ひ家世々齒醫たり孃は實に其長女たり明治十九年赤阪氷川町に住米國人ミッセス、クラヽ、ホイトチーに就き英學を研究し廿一年濟生學舍に入り普通醫學を廿二年より齒科醫伊澤道盛氏に從ひ齒科醫學幷に實地を修業し同廿五年より高山齒科醫學院に入り齒科醫學を學び同廿六年よりドクトル伊澤信平氏に就き歐米新式齒科治術を修業し同廿七年四月當市に於て齒科醫術開業試驗に及第し今般日本橋區本町二丁目十二番地自宅に於て開業せられしと云ふ

●大日本婦人衛生會々況

七月七日午後一時より麴町區富士見町五丁目富士見倶樂部に於いて例會を開らく總裁　小松若宮御息所殿下にも御臨場在らせられドクトル飯盛挺造君には燈の話と云へる演題にて器械等を使用實驗を以つて演說せられ次に醫學博士弘田長君には小兒衛生に就き演述せられ來會員は大凡五十餘

名にして近頃の盛會ありき午後四時半頃散會せり

廣告

七月より八月に至る入會左の如し

◉評議員菊地いち子の紹介により

神田區駿河臺袋町十六番地
通常會員　高木こう子

◉會員松本梅子の紹介により

麹町元園町一丁目四十九番地
通常會員　奥村豊子

◉評議員中野悦子の紹介により

芝公園第二十五號地
通常會員　林靜子

本所横網町二丁目三番地
通常會員　小林千代子

轉居

神奈川縣鎌倉郡鎌倉小町三百九十三番地へ
細川靜子

神奈川縣西浦賀蛇畠町七番地へ
莊司操子

赤坂仲ノ町十八番地へ
志賀八重子

注意

牛込區市谷砂土原町一丁目二番地
西川ふみ子

第二醫院
中川きく子

右の兩氏は是迄都合により一時退會せられしが今回又加入本會に盡力致さる由申込れたり

大日本婦生衛生會

私立大日本婦人衛生會規則

第一條 凡本會の目的は汎く婦女子をして人生の健康を保持するの方法を講究し衛生上の智識を開發せしめ隨て社會全般の幸福を增進するにあり

第二條 本會は私立大日本婦人衛生會と稱し之を東京に置く

第三條 本會の會員たらんと欲する者は身分の尊卑を問はず何人にても入會することを得

第四條 會員たらんと欲する者は族籍住所姓名を記し本會事務所へ申込ある可し
但事務所は下谷區練塀町四十三番地に置く

第五條 本會々員を分て終身會員特別會員通常會員の三類とし共に會費金を納むる者とす
但終身會員は一時に金拾圓以上を納め特別會員は一年金二圓四拾錢以上を納め通常會員は同金壹圓二拾錢を納むる者とす尤も會員中書生及其他事故ある者は唯雜誌料として同六拾錢を納めしむ

第六條 男子にして本會の主義を賛成する者は之を贊成員とす尤も會費は本會員に同し
但本會に功勞ある者は役員の協議を以て終身贊成會員(無會費)とすること有る可し

第七條 本會に推薦員を置き其中より總裁一名を奉す推薦員は皇族の御息所等に之を申請するものとす

第八條 本會は左の役員を置く 會長一名 副會長一名 幹事七名 評議員二十名 書記若干名

第九條 會長副會長及幹事評議員は會員の投票を以て之を撰擧し書記は幹事の推撰により會長之を命ず
但書記は都合により會員外の婦人又は男子に托することあるべし

第十條 會長は本會を總理し副會長は會長を補佐し又は其代理をなし幹事は會長の命を受けて會務を處理し評議員は重要なる會務を評議し書記は役員の命に從て諸記錄及雜務を掌る
但幹事の分課を設けて第一 會計 第二 編輯出版 第三 庶務とす

第十一條 會長の見込を以て右役員外に會員中より臨時に指名委員を置くことあるべし

第十二條 會長副會長及幹事評議員の任期は一年とす尤も再撰するも妨げなし

第十三條 會長副會長及幹事評議員は無給料とし書記は相當の報酬を給す

第十四條 本會の集會は七月八月を除くの外每月一回として通常第一土曜日午後一時より之を開く

第十五條 每會學識經驗ある者を聘し講義演說を囑し本會々員の演說と共に之を筆記して本會雜誌に掲載し每月各一册つゝ無代價にて之を會員に頒付するものとす
但し演說の間に談話を交ゆる事あるべし

第十六條 會員は家族の婦女子又は知己の婦人を本會々場に誘致して傍聽せしむることを得

第十七條 講義演說の際男子の傍聽を禁ず
但會員に緣故ある男子は此限にあらず

第十八條 本會の所有金は本會の名義を以て三井銀行に預くるものとす
但些少の金額は日々の費用支出の爲め事

Digitized by Google
Original from UNIVERSITY OF MICHIGAN

明治二十一年二月二十八日内務省許可

務所に引出置を得

第十九條　會計の收支は總て會計課幹事の撿印を要す

第二十條　會員又は會員外より金圓若くは書籍物品等を寄贈あるときは本會より謝狀を送り且寄贈の品目及其人の姓名を本會雜誌に載せ報告するものとす

第廿一條　會費は郵便小爲替にて東京下谷郵便局へ向け振出しある可し但不得止場合には郵便劵を代用するも妨けあらし尤も一割增とす

第廿二條　入會員には會員證を附與すべきに付郵便にて申込の者は郵便劵二錢を添ふ可し

第廿三條　毎年三月九月の總會に於て會計の收支庶務の概略并に會員の增減等を報告す可し且規則改正の案あれば之を議定するものとす尤も議定は總て多數決とし可否半數なるときは會長之を決す

但至急規則の改正を要する事あるときは豫め會員に報して臨時に之を爲すとを得

第廿四條　毎年三月の總會に於て役員の撰擧をなすものとす

第廿五條　規則の範圍内に於て役員の評議を以て其細則を設くることを得

第廿六條　各地方にて發起者十人以上ある者は支會を設くることを得

但其規則は本會の規則に抵觸せざる樣起草し本會役員の認可を經へし

第廿七條　本會の集會場は時々報知する者とす

第廿八條　會費金は受領證を付與すべし尤も小爲替又は郵便劵にて納むる者は右受領證遞送費として郵劵二錢を添ふべし然らざれば受領證は送付せざるものとす

第廿九條　入會後轉居する者は速に事務所に通知ある可し尤も死去の節は親戚知友等より通知ある可し

第三十條　退會せんとする者は會員證を添へて其旨事務所へ報知あるべし

明治二十五年九月

東京下谷區練塀町四十三番地
私立　大日本婦人衛生會

婦人科小兒科診察
宅診午前　往診午後
貧民無料　懇篤施療ス
女醫　本鄉東竹町二十五　伴　治子

明治廿七年八月一日印刷
明治廿七年八月三日發行

發行所　東京下谷區練塀町四十三番地　大日本私立婦人衛生會
編輯兼發行者　東京牛込區矢來町三番地　田中德三郎
印刷者　同　神田區小柳町十三番地　小高良造
印刷所　同　神田旅籠町貳丁目拾一番地　廣業館

明治廿六年四月四日遞信省認可　第一金曜日發行

（定價金拾錢）